J-PEAKS

梨大だより

vol.01
DEC 25

UNIVERSITY OF YAMANASHI

J-PEAKS サイトビジットを終えて

山梨大学の「強さ」を感じた一日（令和7年11月18日）

令和７年11月18日、山梨大学においてJ-PEAKS事業の「サイトビジット」を開催しました。本学にとっては、J-PEAKS採択後、初めてのサイトビジット開催となります。

サイトビジットの概要

「サイトビジット」とは、採択大学における取組の中核となる研究拠点等を視察し、学長をはじめとする執行部との対面での意見交換を通じて、事業の進捗状況や課題を把握することを目的として実施されるものです。

多くの関係者によるご参加

当日は、J-PEAKSサポーターの森初果教授（東京大学物性研究所）をはじめ、日本学術振興会（JSPS）、文部科学省関係者、他の採択大学のリエゾンの方々など、計32名の皆さまにご参加いただきました。学内には、いつもとは少し違う緊張感と期待感が漂っていたように感じます。

意義深い内容

意見交換会では、本学が進める4つのイニシアティブについて説明し、多くの質問や助言をいただきました。率直な意見を交わす中で、「山梨大学は何を強みに、どこを目指しているのか」を改めて考える時間にもなりました。

その後の施設見学では、建設中の「ゼロエミッションみらいラボ」や、水素・燃料電池ナノ材料研究センターをご案内しました。最先端の研究設備を前に、参加者の皆さまが熱心に耳を傾けてくださる姿が印象に残っています。

意見交換風景

施設見学の説明

当日に向けて

著者が個人的に最も心を打たれたのは、準備段階での研究者同士の議論です。

グリーン水素分野で「地域中核・世界屈指」を目指すにはどうすべきか。異なる強みを持つ他大学とどう連携し、本学はどのような役割を担うのか。分野を越えて意見をぶつけ合い、一つの方向を見据えて議論する姿に、山梨大学の底力を感じました。

【山梨大学の強み】

- 広範囲の卓越研究
- 翻訳機能役割
- 主導的な拠点形成
- 国内外の産学連携

終わった後の声

サイトビジット終了後には、参加者から「山梨大学の取り組みがよく分かった」「自大学にとっても参考になった」といった声も多く寄せられました。この一日を通して、J-PEAKSへの挑戦が確実に前へ進んでいることを実感しました。

J-PEAKS
「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」
https://j-peaks.yamanashi.ac.jp/

文＝Yuzairi Rahim（研究推進・社会連携機構）

グローバルニュートラルエネルギー研究機構

GR/EEN設立記念シンポジウム開催

令和7年12月3日、山梨大学の新たなグリーン水素研究ハブとなる、「グローバルニュートラルエネルギー研究機構（GR/EEN）」の設立を記念したシンポジウムを、山梨大学 甲府キャンパス 大村智記念学術館において開催し、日本・世界各地から合計61名の方々にご来場いただきました。

シンポジウム全体を振り返って

シンポジウムにおいては、ご来賓の皆様から祝辞をいただいた後、山梨大学によるGR/EENの取り組み内容の紹介のほか、基調講演、国内外研究者によるパネルディスカッションを行いました。

GR/EENの紹介

山梨大 宮尾教授よりGR/EEN設立のねらい、およびその取り組みの概要が、参加者へ紹介されました。

“グリーン水素研究力強化に向けた研究生産性向上”、“欧州・北米・東南アジアの研究機関との連携を通した国際影響力向上”、“福島大や山梨県との連携による社会実装プロセスの具現化”、“次世代の高度人材輩出のための人材育成”、の各観点の具体的な施策説明を通し、参加者にはGR/EENの主な取り組みに対する理解を深めていただきました。

基調講演①

ハンブルグ大Oezaslan教授より、EUにおける水素社会実現に向けた政策と研究開発について講演いただきました。

低炭素水素技術の大規模な市場適用期に向け、水素製造時のコスト削減・性能向上のための部材研究開発、電力・熱・輸送を水素で繋ぐ「セクターカップリング」の研究等が紹介されました。

国を跨いだ大学・組織間での連携を更に密接にし、水素社会実現に向け研究を進めていきたいと講演は締めくくられました。

基調講演②

福島大 宗像教授からは、「水素エネルギー関連技術開発の現状と今後に向けた期待」をテーマに講演いただきました。

国内の水素エネルギー研究は、1970年代に発生したオイルショックを機に開始され、現在のカーボンニュートラルに向けた研究開発に至るまでの約50年間の歴史とともに、福島県における研究開発と実証事業の状況を紹介いただきました。社会実装に向け、機関間の国際的連携による研究開発・人材育成の加速が今後の期待として挙げられました。

パネルディスカッション

「大学等研究機関の連携や産学連携を通じた国際共同研究の更なる発展」をテーマに、山梨大学 飯山教授のファシリテートのもと、パネルディスカッションが行われました。参加された研究者の皆さんからは、それぞれの経験にもとづく貴重な意見をいただきました。

ハイライト

山梨大学
飯山教授

Simon Fraser University, Holdcroft 教授

University of California, Merced, Abel 教授

University Putra Malaysia, Shamsul 教授

Envision Energy社 CTO, Xu氏

研究機関の国際連携

- 世界におけるエネルギーの安定供給に向け、水素は必要不可欠。異なる強みを持つ各国の大学が連携し合い、ワンチームとして水素技術研究を進め続けることが非常に重要。
- 大学間での共同研究を進めていくうえでは、互いの持つ研究リソースの相互共有もキーとなる。

産学連携

- 企業側は市場における本質的な課題理解、大学側は基礎研究に各々強みがある。産学協創のコンソーシアム構成等で、双方のリソースを共有し合い、利点を活かした連携推進が重要。
- 大学発の”Invention”(発明)を、社会実装を通し新たな価値をもたらす”Innovation”へ繋げていくため、大学と企業を繋ぎ共同研究を促進・支援する”Industry Liaison”の強化も重要。

持続可能なグリーン水素社会実現に向け、国内外の研究者やステークホルダーが団結した研究の更なる加速のため、GR/EENを地域・日本・世界をつなぐ研究機構へ展開させていきます。

文＝櫻田 麻子（研究推進・社会連携機構）